

# (第6期) 第11回さいたま市公民館運営審議会 議事録

## 1 開催日時

平成25年7月23日(火) 午後1時30分から午後3時30分まで

## 2 開催場所

生涯学習総合センター 7階講座室1・2

## 3 出席者名

〈委員：10名〉

- ① 楠谷 忠洋 委員長
- ② 青島 祐子 委員
- ③ 五十嵐 健一 委員
- ④ 岩井 正三 委員
- ⑤ 柿塚 一二三 委員
- ⑥ 加藤 久美子 委員
- ⑦ 鶴見 清一 委員
- ⑧ 青木 光美 委員
- ⑨ 長岡 綾子 委員
- ⑩ 高後 仁 委員

〈拠点公民館職員：8名〉

- |                |        |
|----------------|--------|
| ① 西区 指扇公民館     | 小池 安雄  |
| ② 北区 大砂土公民館長   | 塚田 和正  |
| ③ 大宮区 桜木公民館長   | 斎藤 隆   |
| ④ 見沼区 大砂土東公民館長 | 鶴見 道子  |
| ⑤ 中央区 鈴谷公民館長   | 足利 英之  |
| ⑥ 南区 文蔵公民館長    | 鈴木 弘   |
| ⑦ 緑区 大古里公民館長   | 三上 富士夫 |
| ⑧ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 | 斉藤 典男  |

〈事務局：5名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 石塚 晃
- ② 副館長 細見 俊孝
- ③ 主幹兼事業企画係長 森田 隆之
- ④ 事業企画係主査 斉藤 明彦
- ⑤ 事業企画係社会教育指導員 橋本 佐度子

#### 4 開 会

出席状況の確認、第10回審議会議事録の承認を経て議事に入った。

#### 5 議 題

- (1) 答申「社会変化に対処する公民館のあり方について」の概要（「さいたま市の公民館のあるべき姿」）について

#### 6 配布資料

- (1) (第6期) 第10回さいたま市公民館運営審議会 議事録  
(2) 公民館運営審議会勉強会 (H25.6.25) のまとめ (資料1)  
(3) 答申「社会変化に対処する公民館のあり方について」の概要 (案) (資料2)

#### 7 公開・非公開の別

公開

#### 8 傍聴者の数

0名

#### 9 会議

- ・会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

#### 10 審議内容

- (1) 事務局より、公民館運営審議会勉強会のまとめ、及びさいたま市公民館運営審議会 答申「社会変化に対処する公民館のあり方について」の概要 (案) を説明。

|       |  |
|-------|--|
| 楠谷委員長 | <p>ただ今の説明の内容について、ご意見、質問等ありますでしょうか。</p> <p>公民館の運営を考える場合、まず必要課題とよばれる地域に根差した学習機会の提供、地域と個人を結び付け、地域の連帯感を醸成するような事業が必要であることは言うまでもありません。それから、団体、グループの助成ということが必要です。グループ、団体というのは同じ目的を持つ活動です。基盤として同じ素地をもっていますから、生涯教育の推進母体となるように働きかけることが大切だと思われませんが、必ずしも活動が活発でないところもあります。活性化のための援助、指導、研修、場の提供など、積極的方策が必要です。それから個人の学習への援助を付け加えねばなりません。個人の学習は一つの柱として考えていかねばなりません。個人学習から集団学習へ、そしてまた個人学習へと繰り返す継続学習が重要であると言えます。</p> <p>先日勉強会で出ましたが、さいたま市は政令市の中でトップクラスの公民館数があります。これらを地域づくりに活かすように、課題として捉えるのもさいたま市の公民館のあるべき姿ではないかと考えます。</p> |
|-------|--|

|       |  |
|-------|--|
|       | 私見ですが、最近公民館が地域を見なくなったと言えるのではないかと思います。公民館職員が地域に出て行って、住民と地域の実情を語り合うことがなくなったということです。公民館はカルチャーセンターとは違います。学習施設、社会教育施設としての公民館というものが考える柱の一つになるうかと思えます。  |
| 加藤委員  | 資料2、学校・地域・行政との連携の中にきちんと学社連携を明記してほしいと思います。それから、新たな公民館利用者の獲得のところの、「地域に開かれた気軽に立ち寄れる公民館づくり」、資料2の最後のところ、「地域の人材発掘」を「職員のレベルアップ」の先に表記してほしいと思います。   |
| 鶴見委員  | 議題にも「社会変化に対処する」とありますが、現在ものすごい速さで変化する社会のなか、公民館の役割も大きく変化していると思います。公民館ができた当時と比べると、今は情報を自分で集められますし、公民館に行かなくても学習できると言えます。そのような状況の中、公民館をもっと、そこから学習が始まる、気軽に立ち寄れる、ワンランク住民よりの優しい感じというか、そういう場所として公民館を捉えたらどうなのでしょう。 |
| 楠谷委員長 | 今「もっと気軽な」という言葉が出ました。昭和21年7月、公民館は、「町の囲炉裏端である」ということで発足しました。学習ということが強く求められる今、むしろ原点に戻って公民館のあるべき姿を見つめなおすべきと反省しました。  |
| 森田主幹  | 「気軽に立ち寄れるもっと優しい感じ」ということで、多くの方々に利用していただけるように、常に公民館は住民に門戸を開くよう努力して方策を考えていかねばならないと思います。   |
| 岩井委員  | 公民館というと一般には常に学習面が頭にあり、答申のねらいとして、人づくり・ネットワークづくりはハードルが高いことが指摘されます。   |
| 長岡委員  | 資料2の最後、「学校・地域・行政等の連携調整」の中に民間機関も加えてほしいと思います。民間企業も地域の一員です。地域の全体像からとらえ、ネットワークの中に入れるとよいと思います。  |
| 森田主幹  | 「学校・地域・行政等の連携調整」中に社会貢献的意味で民間との連携を明示し、広く取り入れていくかたちにしていきたいと思えます。   |
| 青島委員  | 資料2の「新たな公民館利用者の獲得」のところですが、公民館の事業がたくさんあるなか、昼間の事業がまだまだ多いのは、社会変化に対応しているとは言えないのではないかと思います。昼間の事業だけでは、限られた人しか参加できないので、時間的な工夫も内容として入れてほしいと思えます。   |
| 楠谷委員長 | 公民館が日中だけで、夜間、休日に事業が少ないことは前回も指摘された所です。職員の勤務体制等が配慮されているのですが、例えば、交代勤務制をとって、勤務体制を変更して対応している公民館もあるという話も聞きます。今後の課題として、取り入れていかねばならない大きな問題だと思います。  |
| 加藤委員  | さいたま市民大学では、早朝の「朝学・ビジネスコース」があり、人気も  |

|       |   |
|-------|---|
|       | <p>あると聞いていますが、まだ認知度が低いと思います。朝だけでなく夜の講座もつくってほしいと思います。講座を始めても、認知度が低く、企画数が少ないと、参加者が少なくなり、つぎの年は取りやめになってしまうことが多いのが実情ですが、そこで頑張っけて提案し続け、開催時間のことをいいたちで表記できたらいいと思います。</p>  |
| 森田主幹  | <p>今、市民大学では、朝学コースのほかに、教養コースと人材養成コースを土曜日に開催し、できる部分で対応しています。時間帯のこと、曜日、時期については、本編で加えさせていただきたいと思います。</p>  |
| 五十嵐委員 | <p>3. 1 1の震災後の地域の関心は、防災という面がとて高くなっています。防災、災害は、公民館事業のあり方の5つの柱のどのあたりに出てくるでしょうか。拠点として公民館があるとすれば、公民館として、防災センター、避難所、介護センターなど、何らかのかたちで、地域の役に立てればよいと感じています。</p>  |
| 楠谷委員長 | <p>防災関係については、今でも公民館が多く避難所になっています。公民館の活動の一つの柱としていかなばならないと思います。</p>   |
| 五十嵐委員 | <p>私は民生委員として災害時要援護者名簿を作っていますが、「防災講座」として年に何回か公民館の事業の中に取り込めるとよいと思います。</p>   |
| 森田主幹  | <p>防災は地域の課題として、「地域の特色を生かした事業」に入ると思っています。公民館は災害時要援護者の避難所として活動することになっていますし、地域の要望、課題として本文でも防災について触れていきたいと思っています。</p>   |
| 柿塚委員  | <p>資料2「新たな公民館利用者の獲得」のところに、是非高齢者を対象として入れていただきたいと思っています。私は浦和駅東口一帯を対象にした社会福祉協議会に携わっていますが、今年75歳以上の方は3500人、去年は3300人で毎年100～120名ずつ増えています。そういう人たちが公民館を利用できたらいいと思っていますが、公民館は敷居が高いという声を聞きます。公民館に高齢者を招くように部屋を解放してほしいと思っています。40年程前、「公民館は地域の茶の間です」という言葉がありました。</p> |
| 森田主幹  | <p>公民館では、介護予防事業として、高齢者学級とシニア健康体操教室を実施しています。高齢者の方にとっても公民館は敷居が高いということはよくわかりましたので、立ち寄りやすい公民館を考えていきたいと思っています。</p>   |
| 楠谷委員長 | <p>「三割公民館」という言葉があります。地域住民の三割しか行かないという意味ですが、さいたま市の場合は三割に届かないのではないのでしょうか。もっとコミュニティに開かれた公民館を目指さねばならないと思っています</p> <p>私のほうで付け加えさせていただきたいことがあります。これは全国的にも言えることですが、地方自治、選挙等、政治教育の重大さが抜けていると思うのです。これらのことについても入れられるべきだと思います。</p>                               |
| 五十嵐委員 | <p>「もっと気楽に」という観点からすると、高齢者をこれから介護する人を対象にした講座とか事業ということで、地域包括支援センターからマネージャーを招いて、一日相談会でも、半日相談会でも開けたらよいと思っています。</p>  |

|       |  |
|-------|--|
| 森田主幹  | 現在、全ての公民館ではありませんが、地域包括支援センターとともに色々な事業を行っています。たとえば、「介護者サロン」では、介護をしている人が地域包括支援センターの職員さんとお話をして心をなごませるという事業をしている公民館もあります。地域の課題の一つでありますので、これからも継続して実施していきたいと思います。               |
| 青木委員  | 子どもの視点を入れてほしいと思います。今、子どもの社会では、いじめや、子供の居場所がないと言われていています。子どもも地域の大切な一員です。公民館は子どもたちにも開かれているというメッセージを出してほしいと思います。小学生だけではなく、中高生に対しても、「力を貸してください」という表現でメッセージを送り、答申の中で触れてほしいと思います。 |
| 加藤委員  | 公民館数はトップクラスであるというところに、参加している団体、グループ数もとても多いということも答申に反映してほしいと思います。   |
| 森田主幹  | 公民館数だけでなく、登録グループも多いということも出させていただきます。   |
| 楠谷委員長 | たたき台がつくられたあとで、皆さんの意見を付け加えていただき、中味、内容のある、行政として実行していただけるようなものにしていきたいと思っています。ご配慮のほどよろしく申し上げます。  |

### (3) その他

- ・ 次回は、9月24日（火）13時30分から生涯学習総合センターにおいて開催することを確認した。
- ・ 答申のたたき台をつくり、次回審議会の前に委員へ送付し、次回の審議会において意見を伺う。その後いただいた意見を反映させ、委員長と事務局とで微調整し、10月に完成を目指すことを確認した。

## 11 閉会